

## だんじりでつながる保久良四地区 - まえがき・目次・保久良四地区について

著者	川上 真央, 甲南大学久保ゼミ, 久保 はるか
雑誌名	「大学周辺地域の歴史を知る」シリーズ
巻	3
ページ	1-2
発行年	2019-03
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1260/00003445/">http://id.nii.ac.jp/1260/00003445/</a>

# まえがき

はじめまして。私たちは甲南大学法学部久保はるかぜミです。今年で三度目となる「**大学周辺の歴史を知る**」シリーズでは本山北町を取り上げ、この地区に昔からお住まいの方々、新住民の方々、将来この地区を支えていく方々すべての世代の方々に地域の歴史とだんじりの魅力を再発見していただきたいという願いで作成いたしました。

この地区は保久良神社の氏神様「椎根津彦命」のご遺徳である「**一致協力の精神**」がだんじりを通して定着し、まちづくり活動を支えています。当冊子の作成に際しては、北畑・田邊・小路・中野の各地区評議会、青年会の方々を中心に多くの住民の皆様にご協力いただきました。また本山北町まちづくり協議会の副田耕司様、吉田昌弘様には打ち合わせからご参加いただき各地区の方々をご紹介いただくなど多大なご協力を賜りました。この場を借りて御礼申し上げます。

## 保久良四地区

保久良四地区は、東灘区の東部、保久良山の麓に位置し、北畑・田邊・小路・中野区から成り立っています。

ここは、関西の経済拠点であった神戸港や大阪に近く、住みやすい地域だったこともあり、大正・昭和の初期には実業家の邸宅が数多く建てられました。彼らだけでなく外国人も多く、特に戦前にはドイツ人の住居が岡本地区を含め二十軒ほど存在したことからドイツ人村と呼ばれる地域がありました。

当時の建物が今も残っています。大正二年に川崎汽船社長が建てた翠嵐房は谷崎潤一郎の著書「細雪」にも登場します。また大正十二年に建てられた岡本の洋館は重要文化財である「萬水荘」を手掛けたことで知られる著名な建築家、木子七郎が設計しました。このように、地区内には歴史的にも資料的にも価値の高い建物が現存しているのです。

この他に日本経済を牽引した人々の多くの邸宅が建てられたことは、保久良神社の氏神様「椎根津彦命」がこの地区に伝えたといわれる「ご遺徳」と関係しているかもしれません。猿丸名誉宮司・暮部宮司談によると、この「ご遺徳」



# 目次

・まえがき	1
・保久良四地区について	2
・保久良四地区まるわかりマップ	3〜4
・お祭り鳴り物クイズ	5
・保久良神社の歴史	6
・北畑地区	7
・田邊地区	11
・小路地区	15
・中野地区	19
・まちづくり協議会Q&A	23
・本山北町まちづくり協議会より	31
・編集後記	33



は、海運技術に必要な火の起し方・重量物運搬・一致協力の精神の三つから構成されます。このうちの火の起し方は保久良神社社頭の「灘の二つ火」となって現れ、大阪湾を行き交う船の安全を守る役割を担い、この地域の海上交易が発達しました。これが神戸港開港に一役を買ったと同時に、

外から入ってくる人々に対する抵抗感の少ない地域の土壌を作ったといえます。**一致協力の精神**は、保久良神社の祭りを通じ、また、四地区内の八幡神社やお寺が教育の場とされた時代に、地域の教えとして伝えられたことで、地域の人々に話合いと助け合いの習慣をもたらし、根付いていきました。地域の「だんじり祭り」は、この精神に支えられてきたことで、続けられてきたといつて過言ではありません。加え、八幡神社やお寺が教育の場にされたことで「文教地区」としての基礎をもたりました。現在でも、この地区周辺に、小学校、大学などの教育機関が存在しているのがその証だといえます。現在では保久良四地区を力にする、本山北町まちづくり協議会活動にも**一致協力の精神**は受け継がれています。この地区は太古から伝えられたことを忠実に守り、それだけでなくしっかりと後世にも受け継いでこられたことで現在の地区の姿があるのです。